

# 2014 年 IEEE 関西支部 総会資料

2014 年 2 月 17 日  
IEEE 関西支部



総会資料目次

<b>2014 年 IEEE 関西支部総会 PROGRAM</b>	<b>1</b>
<b>I. 2014 年関西支部役員・理事</b>	<b>2</b>
<b>II. 2014 年 KANSAI CHAPTER 役員</b>	<b>5</b>
<b>III. 2013 年 活動報告</b>	<b>7</b>
<b>IV. 関西支部会員数</b>	<b>20</b>
<b>V. 2014 年 活動計画</b>	<b>24</b>
<b>VI. 2013 年 会計報告</b>	<b>31</b>
<b>VII. 2014 年 予算 (案)</b>	<b>32</b>
<b>VIII. 受賞者</b>	<b>34</b>
<b>IX. IEEE KANSAI SECTION BYLAWS</b>	<b>35</b>

## 2014 年 IEEE 関西支部総会 Program

1. 日時：2014 年 2 月 17 日（月）15 時 00 分～17 時 30 分
2. 場所：京都テルサ 東館 2 階 中会議室  
京都市南区東九条下殿田町 7 0 番地  
(新町通九条下ル 京都府民総合交流プラザ内)
3. 総会スケジュール
  1. 支部長挨拶
  2. 役員・理事紹介
  3. 2013 年活動報告および 2014 年活動計画
  4. 2013 年会計報告および 2014 年予算案
  5. Chapter 役員および活動紹介  
<休憩>
  6. IEEE 関西支部 GOLD 賞授賞式
  7. IEEE 関西支部学生研究奨励賞授賞式
  8. IEEE 関西支部メダル授賞式
  9. IEEE 関西支部新 Fellow 紹介及び研究紹介
  10. 閉会の挨拶

## I. 2014 年関西支部役員・理事

### 1. 役員 (Section Officers)

Chair:	小野寺 秀俊	(京都大学)
Vice Chair:	上田 修功	(日本電信電話)
Secretary :	山田 武士	(日本電信電話)
Treasurer:	須山 敬之	(日本電信電話)

### 2. 理事 (Committee Chairs)

MDC Chair:	小倉 武	(立命館大学)
NC Chair:	杉江 俊治	(京都大学)
SAC Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)
TPC Chair:	田邊 信二	(三菱電機)
AC Chair:	楠本 真二	(大阪大学)
COC Chair:	尾上 孝雄	(大阪大学)

### 3. 理事 (Past Officers, Past Committee Chairs)

Past Chair:	片桐 滋	(同志社大学)
Past Vice Chair:	矢野 厚	(住友電気工業)
Past Secretary/Treasurer:	村瀬 亨	(住友電気工業)
Past NC Chair:	山本 裕	(京都大学)
Past TPC Chair:	中谷 智広	(日本電信電話)

### 4. Committee Officers

#### a. Membership Development Committee

Chair:	小倉 武	(立命館大学)
Secretary:	熊木 武志	(立命館大学)
Member:	長岡 宏	(オムロン)
	平田 嘉裕	(住友電気工業)
	勝山 豊	(大阪府大)
	浅井 明	(パナソニック)
	村松 純	(日本電信電話)
	宮本 雅之	(シャープ)
	佐々木 鉄雄	(関西電力)
	貝原 俊也	(神戸大学)
	太田 快人	(京都大学)
	小林 浩	(三菱電機)

岡 育夫	(大阪市立大学)
橘 達弘	(ルネサス エレクトロニクス)
木村 啓明	(ローム)
棚橋 成夫	(京セラ)
加藤 貴敏	(村田製作所)
柏 卓夫	(古野電気)
ペーパー フェルナンド	(情報通信研究機構)

#### b. Nominations Committee

Chair:	杉江 俊治	(京都大学)
Member:	浅田 稔	(大阪大学)
	奥乃 博	(京都大学)
	大村 泰久	(関西大学)
	杉浦 博明	(三菱電機株式会社)

#### c. Student Activities Committee

Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)
Member:	宮本 伸一	(大阪大学)
	石原 亨	(京都大学)
	和泉 慎太郎	(神戸大学)
	芳賀 博英	(同志社大学)
	市川 昊平	(奈良先端科学技術大学院大学)
	小橋 昌司	(兵庫県立大学)
	泉 知論	(立命館大学)
	花田 良子	(関西大学)
	奥 宏史	(大阪工業大学)
	澤田 祐一	(京都工芸繊維大学)

#### d. Technical Program Committee

Chair:	田邊 信二	(三菱電機)
Vice Chair:	程 俊	(同志社大学)
Secretary:	中根 和彦	(三菱電機)

#### e. Awards Committee

Chair:	楠本 真二	(大阪大学)
Member:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
	太田 能	(神戸大学)

大橋 正治	(大阪府立大学)
杉山 久佳	(大阪市立大学)
黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
土屋 達弘	(大阪大学)
中村 匡秀	(神戸大学)
野口 拓	(立命館大学)
山田 晃久	(シャープ)
太田 正哉	(大阪府立大学)
榎木 哲夫	(京都大学)
杉原 浩平	(三菱電機)
藤川 和利	(奈良先端科学技術大学院大学)
三好 誠司	(関西大学)
村田 英一	(京都大学)

#### f. Chapter Operations Committee

Chair:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Secretary:	橋本 昌宜	(大阪大学)
Member:	浅田 稔	(大阪大学)
	浦岡 行治	(奈良先端科学技術大学院大学)
	藤島 実	(広島大学)
	沼 昌宏	(神戸大学)
	前田 忠彦	(立命館大学)
	熊澤 宏之	(大阪産業大学)
	富山 宏之	(立命館大学)
	石崎 俊雄	(龍谷大学)
	杉立 厚志	(三菱電機)
	中村 篤	(日本電信電話)
	長谷 智弘	(龍谷大学)
	萩原 朋道	(京都大学)

#### g. Life Members Affinity Group

Chair:	小山 正樹	(元奈良先端科学技術大学院大学)
Vice Chair:	橋本 正弘	(大阪電気通信大学)
Secretary:	木戸出 正継	(元奈良先端科学技術大学院大学)

#### h. WIE (Women in Engineering) Affinity Group

Chair:	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
--------	--------	-----------------

## II. 2014 年 Kansai Chapter 役員

### 1. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

Chair:	浦岡 行治	(奈良先端科学技術大学院大学)
Vice Chair:	中村 孝	(ローム)
Secretary:	前元 利彦	(大阪工業大学)
Treasurer:	中原 健	(ローム)

### 2. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

Chair:	藤島 実	(広島大学)
Vice Chair:	日高 秀人	(ルネサス エレクトロニクス)
Secretary:	吉田 毅	(広島大学)
Treasurer:	甲斐 康司	(パナソニック)

### 3. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	沼 昌宏	(神戸大学)
Vice Chair:	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
Secretary:	和田 昌浩	(甲南大学)
Treasurer:	越智 裕之	(立命館大学)

### 4. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Chapter

Chair:	前田 忠彦	(立命館大学)
Vice Chair:	多賀 登喜雄	(関西学院大学)
Secretary:	山本 温	(パナソニック)
Treasurer:	前川 泰之	(大阪電気通信大学)

### 5. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

Chair:	熊澤 宏之	(大阪産業大学)
Vice Chair:	岡田 実	(奈良先端科学技術大学院大学)
Secretary:	東野 武史	(奈良先端科学技術大学院大学)
Treasurer:	熊本 和夫	(大阪工業大学)

### 6. CS (Computer Society) Kansai Chapter

Chair:	富山 宏之	(立命館大学)
Vice Chair:	岡田 吉生	(日本 IBM)
Vice Chair:	南出 英明	(三菱電機)
Secretary:	井上 昭彦	(パナソニック)
Treasurer:	泉 知論	(立命館大学)



#### 7. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

Chair:	石崎 俊雄	(龍谷大学)
Vice Chair:	柏 卓夫	(古野電気株式会社)
Secretary:	上田 哲也	(京都工芸繊維大学)
Treasurer:	三谷 友彦	(京都大学)

#### 8. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

Chair:	杉立 厚志	(三菱電機)
Vice Chair:	裏 升吾	(京都工芸繊維大学)
Secretary:	加藤 友章	(日本電気)
Treasurer:	村田 博司	(大阪大学)

#### 9. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

Chair:	中村 篤	(日本電信電話)
Vice Chair:	澤田 宏	(日本電信電話)
Secretary:	堀 貴明	(日本電信電話)
Treasurer:	戸田 智基	(奈良先端科学技術大学院大学)

#### 10. CES (Consumer Electronics Society) West Japan Joint Chapter

Chair:	長谷 智弘	(龍谷大学)
Vice Chair:	山口 真悟	(山口大学)
Secretary:	後藤 富朗	(名古屋工業大学)
Treasurer:	坂本 直史	(ルネサス ソリューションズ)

#### 11. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	萩原 朋道	(京都大学)
Vice Chair:	藤崎 泰正	(大阪大学)
Secretary:	蛸原 義雄	(京都大学)
Treasurer:	加嶋 健司	(京都大学)

### III. 2013年活動報告

#### 1. 総会

2013年2月12日(火)にキャンパスプラザ京都5階第一講義室において、2013年総会を開催し、各 Committee、Affinity Group、Chapter からの報告、GOLD 賞授賞式、学生研究奨励賞授賞式、関西支部メダル授与式を実施した。参加者：46名

#### 2. 理事会

- 第1回理事会 1月21日 住友ビルディング 出席者：15名  
2013年総会について/IEEE 本部報告について
- 第2回理事会 2月12日 キャンパスプラザ京都 出席者：11名  
2013年総会について
- 第3回理事会 5月30日 キャンパスプラザ京都 出席者：14名  
学生研究奨励賞の選出方法の変更について/関西支部 WIE AG 設立申請について/  
R10 総会報告/第1回 JC 理事会報告/第1回 JC COC Meeting 報告/第1回  
MDC/SAC 合同 Meeting 報告
- 第4回理事会 9月11日 キャンパスプラザ京都 出席者：14名  
関西支部 GOLD 賞、学生研究奨励賞募集について/IEEE Milestones 申請について  
/第2回 JC 理事会報告/Joint Chapter 化について
- 第5回理事会 12月20日 キャンパスプラザ京都出席者：14名  
GOLD 賞、学生研究奨励賞選定/2013年活動報告、2014年活動計画/2013会計報  
告/2014予算案/第3回 JC 理事会報告/第2回 MDC/SAC Joint Workshop 報告

#### 3. 関西支部主催講演会

Technical Program Committee の企画により計6回(第73, 74, 75, 76, 77, 78回)の関西支部主催技術講演会を実施した。詳細は [4-d. Technical Program Committee 報告](#) の項を参照のこと。

#### 4. 各 Committee 活動

##### a. Membership Development Committee

2013年は4月、10月と MDC & SAC Joint workshop を開催した。主に MDC、及び SAC に参加している委員の組織を通して、IEEE 活動の利点を広く周知し、新卒者の学生会員から正会員への移行をスムーズに行わせるとともに、委員の追加をはじめ新しい活動を取り入れた。また、SAC と連携し、大学院生を中心とした学生会員の増加に力を入れた。

- (1) 2014年1月25日現在、会員数は2,355名となった ([IV. 関西支部会員数の項](#)参照)。  
昨年度同時期(2,334名)を更に上回る会員の確保を実現した。
- (2) 7月、11月に各委員の組織における会員状況を定期的に配布し、これを会員数増加のための資料とした。

- (3) **MDC & SAC** に委員に加入していないが、会員数が多い組織を名簿から抽出し、新委員の加入を働きかけた。
- (4) **IEEE** の紹介パンフレットを取り寄せ、各委員がワークショップ等に配布することで新会員の勧誘を図った。
- (5) 上記の結果、**MDC** に 2 名、**SAC** に 2 名の新委員が加わった。
- (6) 12 月に **renew** を促すためのメールを準備し、2014 年 1 月にメーリングリストを用いて全会員に対して送付した。
- (7) 会員になるための手続き、及び送金について日本国内でも、より簡単に行えるような仕組みにするため検討を行ってきた。
- (8) **MDC** 及び **SAC** の委員メンバーの交代 (5 名) があった。

#### b. Nominations Committee

昨年と同様に、支部役員の方々と連携をとり、**Senior Member** の拡大をはじめとする、正会員や学生会員の拡大活動を行った。

- (1) 2013 年 3 月 1 日締め切りの 2014 年 **Fellow Nomination** に際し、関西支部から数名の **Fellow** 推薦を行なった。
- (2) 2015 年 **Fellow Nomination** に関して、関西支部内の現 **Fellow** に対し新 **Fellow** の推薦を依頼し、関西支部からの推薦者を決定することとした。また、**Senior Member** の方々へ **Fellow** 制度の案内を行い、昇格への関心の醸成を行った。推薦依頼があった方々に手続き情報をお送りし、関西支部からの **Fellow** 推薦準備を開始した。

#### c. Student Activities Committee

**SAC** 委員会では、昨年に引き続き、学生会員の増強、学生会員の活動支援、等の活動を行ってきた。

- (1) 既存 7 大学 (大阪大学、京都大学、立命館大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学) の **Student Branch** を中心に、学生会員の増強、学生会員の活動支援、対外活動、**Student Branch** 間の情報交換の促進、等の活動を行った。また、各 **Student Branch** の **Chair** を集め **Student Branch Chair Meeting** を開催し、前期の活動状況や今後の活動計画について議論を行った。
- (2) **Membership Development Committee** と **Student Activities Committee** と合同で **Workshop** を開催 (4 月、10 月) し、連携して会員の増強、**GOLD** 会員、女性会員を含めた活動支援、等の活動を行った。特に学生会員から正会員への移行についてならびに会員数の多い大学からの新たな **SAC** 委員の選出について検討を行った。
- (3) **Student Branch** による自主的な活動としては、昨年までと同様に 6 大学合同で関西支部 **Student Branch** 交流会を企画、開催した。また、立命館大学 **IEEE Student Branch** で、例年開催している **English Presentation Competition** を 10 月 11 日に開催し、関西支部の他の **Student Branch** から参加者を得て、17 件の発表、70 名の参加者を得

- た。優秀発表者に IEEE 関西支部 Student Activities Committee から表彰状を授与した。
- (4) 東北大学において開催された IEEE 学生ブランチリーダーシップトレーニングワークショップに関西セクション傘下の SB より学生を派遣した。
- (5) Award Committee と連携して IEEE 関西支部学生研究奨励賞を企画し、審査を行った。詳細は [4-e. Award Committee](#) 報告の項を参照のこと。

#### d. Technical Program Committee

以下の表に示す計 6 回の技術講演会を実施した。

	日時	場所	講演者	参加者数 (IEEE 会員)	共催・協賛組織名
第 73 回	2013 年 3 月 19 日	ATR (国際電気通信基礎技術研究所) G 階大会議室	鹿野清宏 教授 (IEEE Fellow), 奈良先端科学技術大学院大学	91(28)	IEEE Signal Processing Society (SPS) Kansai (株) 国際電気通信基礎技術研究所 (ATR) (独) 情報通信研究機構 (NICT)
第 74 回	2013 年 4 月 18 日	同志社大学 京田辺キャンパス 香知館 KC308 会議室	Prof. Li Ping (IEEE Fellow), Department of Electronic Engineering, City University of Hong Kong	35(14)	IEEE Communications Society (COMS) Kansai IEEE Student Branch at Doshisha University 同志社大学理工学部インテリジェント情報工学科
第 75 回	2013 年 6 月 24 日	関西大学千里山キャンパス 第四学舎3号館4階3402教室	Prof. Laurence Anthony (IEEE Member), 早稲田大学理工学術院英語教育センター	42(22)	IEEE Kansai SAC IEEE Kansai LMAG Student Branch at Kansai University
第 76 回	2013 年 9 月 27 日	龍谷ミュージアム及び西本願寺境内(技術講演はミュージアム内多目的室及びシアター、現地見学は西本願寺書院)	岡田至弘 センター長・教授 龍谷大学情報メディアセンター	17(13)	IEEE Kansai LMAG
第 77 回	2013 年 10 月 11 日	NTT コミュニケーション科学基礎研究所 NTT けいはんなビル C 棟 3 階大会議室	Prof. Aapo Hyvarinen (IEEE Fellow), ヘルシンキ大	54(31)	電子情報通信学会 応用音響研究会 日本音響学会 電気音響研究会 IEEE Signal Processing Society (SPS) Japan Chapter, IEEE Signal Processing Society (SPS) Kansai Chapter
第 78 回	2013 年 11 月 15 日	あべのハルカス	近畿日本鉄道株式会社あべのハルカス事業本部 土井 康敬氏、阿倍野橋ターミナルビル整備工事 共同事業体 須川 純治氏、東芝エレベータ株式会社 ビルソリューション事業本部 野元 恵吾氏、塩路 孝也氏	24(18)	IEEE Kansai LMAG

#### e. Awards Committee

2012年に引き続き2013年「IEEE 関西支部 GOLD 賞」の募集を行った。本賞は2008年から、学生会員、大学や研究所の若手研究員、企業の若手会員の3種類の表彰を行っている。今年は10月18日に応募を締め切って、全体で3名の応募者があった。当委員会による選定の後、2名の受賞者を12月20日の支部理事会で決定した。

また、2013年「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の審査を、今年度も継続してSACと合同で審査委員会を設立して行った。今年は、賞の趣旨の明確化とそれに伴う応募書類の改訂を行った。10月11日に応募を締め切ったところ、17名の応募者があった。当委員会による選定の後、12月20日の支部理事会で8名の受賞者を決定した。

なお、2013年GOLD賞のメダル作成費と2013年学生研究奨励賞の賞状作成費ならびに副賞についてはJapan Council Section 支援費からの支援によっている。

#### f. Chapter Operations Committee

関西支部内のChapterで活動状況について横断的に情報共有を行い、各Chapterの活動をさらに活性化させる目的で活動している。Japan Council Chapter Operation 委員会と連携し、各Chapter活動報告による情報共有、Distinguished Lecturer 制度の説明、Japan Councilの支部Chapter支援費の新ルールについて周知した。さらに、IEEE本部へ行う報告やChapter維持条件の説明を通して、定常活動の維持について各Chapterに再確認した。また、これまでに引き続き関西支部でのChapterを支援するため、新設に必要な情報の提供、既存Chapterとの情報交換などを行ってきた。

#### g. Life Members Affinity Group

2月12日(火)に年次総会を開催した。まず、活動初年度とてLMAG活動を開始するに当たり、登録会員の活動参加に対する興味の内容を知るためのアンケートを行った。その結果、専門技術にこだわらず広く活動が求められていることが明らかになった。それを受けて、関西支部TPCと技術講演会を共催し、特に9/27 龍谷大学ミュージアム、11/15 あべのハルカス現地での技術講演と見学を行った。これで現地講演会というスタイルを構築した。また、5月と12月に「Kansai-LMAG Newsletter」を発行しホームページに掲載するとともに電子メールにて案内した。これらの活動を通じ連絡網も整備してきた。

### 5. Kansai Chapter 活動

#### a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

1月31日には、IEDM2012報告会を常翔学園大阪センターにて開催し、3名の講師が同会議の参加者にシリコンデバイス/プロセス関連及び化合物デバイス、モデリング・信頼性関連の技術情報についてご講演頂いた。

6月5日～6日には、IEEE SSCS 関西チャプターとの共催で国際会議である“2013 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2013)”を関西大学100周年記念会館にて開催した。学生や若手研究者を中心に131名の方々に参加頂

き、4件の招待講演 (Keynote: 2件, Invited: 2件)、14件の一般講演及び34件のポスター講演 (ショートプレゼンテーション付き) を実施した。1件の IEEE EDS Kansai Chapter IMFEDK Best Paper Award と、6件の IEEE EDS Kansai Chapter IMFEDK Student Paper Award を表彰した。また、本会議に先立って “Fundamentals of GaN Transistor” と “Fundamentals of GaN Transistor Application Technology” と題して GaN のパワー応用に関するチュートリアル講演会を開催し、若手エンジニアや学生の方々に多数参加頂いた。

7月29日には常翔学園大阪センターで、Distinguished Lecturer を招いての技術講演会 (DL Meeting) 及び技術講演会を開催し、最上 徹氏 (技術研究組合・光電子融合基盤技術研究所) に「Si-LSI Innovations and Challenge」と題して、浦岡行治教授 (奈良先端科学技術大学院大学) に「透明酸化物材料で創る未来のディスプレイ」と題して、それぞれ講演頂いた。

10月25日には技術講演会としてはすでに定例となった関西コロキウム電子デバイスワークショップを大阪工業大学うめきたナレッジセンターで実施した。講師には関西に職場住所を持つ企業・大学・公共機関が投稿した論文 (刊行期間: 2012年4月から2013年3月) の中から特に優秀ものを13件選出して、国際レベルの研究成果を日本語および英語にて発表して頂いた。36名の参加があった。1件の IEEE EDS Kansai Chapter of the Year Award と2件の IEEE EDS Kansai Chapter MSFK Award を表彰した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/eds/>

## b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

3月18日に、ISSCC2013 報告会を常翔学園大阪センターにて開催し、13名の講師に Analog, A/D, RF, Wireline, High-Performance Digital, Energy-Efficient Digital, Memory, Technology Directions の各技術分野についてご講演頂いた。

5月13~15日に、電子情報通信学会集積回路研究専門委員会との共催で、“LSI and Systems Workshop 2013” を北九州国際会議場で開催した。参加人数は387名である。ポスター講演は44件あり、SSCS からは2件の Academic Research Award を表彰した。

6月5~6日に、IEEE EDS 関西チャプターとの共催で国際会議である “2013 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2013)” を関西大学100周年記念会館にて開催した。学生や若手研究者を中心に131名の方々に参加頂き、4件の招待講演 (Keynote: 2件, Invited: 2件)、14件の一般講演及び34件のポスター講演 (ショートプレゼンテーション付き) を実施した。SSCS からは1件の Student Paper Award を表彰した。

7月22日に、IEEE SSCS ジャパンチャプターとの共催で、“2013 Symposium on VLSI Circuits (VLSI Symposium 2013)” の国内報告会を東京理科大学で開催し、11名の講師に Analog, A/D, RF, Wireline, Digital, Memory 等の各技術分野についてご講演頂いた。

8月24~25日に、IEEE SSCS ジャパンチャプターとの共催で、“VDEC デザイナーズフォーラム 2013” を東京大学で開催した。講演者は11名、参加人数は50名である。SSCS



からは学会運営支援費を拠出した。

11月15~16日に、電子情報通信学会集積回路研究専門委員会とIEEE SSCS ベトナムチャプターと共催で、“The 2013 International Conference on Integrated Circuits, Design, and Verification (ICDV 2013)”をHoChinMinh City University of Scienceで開催した。参加人数は80名、32件の招待講演及び一般講演と24件のポスター講演を実施した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sscs/>

### c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

2013年前期(1月~6月)は1件のAdministrative Meetingを実施した。2013年後期(7月~12月)は、2件の技術講演会、3件の協賛、2件のAdministrative Meetingを実施した。特に2件の技術講演会は、多数の学生や一般の参加者があり大変好評だった。さらに活発な議論も行われ、多くの参加者の今後の研究等の活動にも役立つと考えられた。詳細は以下のとおりである。

- ・ 7月29-30日に淡路夢舞台国際会議場で開催された第26回回路とシステムワークショップへの協賛を行った。(参加者178名)
- ・ 8月30日に大阪大学コンベンションセンターで開催される第3回コンピュータショナル・インテリジェンス研究会への協賛を行った。(参加者36名)
- ・ 10月3日に、神戸大学にて東北大学大学院情報科学研究科の張山昌論准教授をお招きして、技術講演会『人にやさしい応用を拓く「計算」技術』を実施した。(出席者46名)
- ・ 10月3日に、神戸大学にて、Administrative Meetingを開催し、今後の活動について協議した。(出席者3名)
- ・ 11月1日に、神戸大学にて名古屋工業大学大学院工学研究科の片山喜章教授をお招きして技術講演会『分散アルゴリズム入門』を実施した。(出席者38名)
- ・ 11月1日に、神戸大学にて、Administrative Meetingを開催し、今後の活動について協議した。(出席者2名)
- ・ 11月16-17日に、新潟大学工学部で開催された第56回自動制御連合講演会に協賛した。(参加者約600名)

以上、最新技術動向に関する技術講演会を開催し、参加者との交流を通じて、活動のアピールと会員の獲得に努めた。さらに、いくつかの学会や研究会への協賛を行うことで、CASS関西チャプターの活動をアピールすることもできた。また、役員間でメール等による連絡を密に行い、今後の計画も練っている。なお、実施したものや今後の予定については、詳細を次のURLに掲載している。

URL <http://www-ise2.ist.osaka-u.ac.jp/cas/>

### d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Chapter

昨年に引き続き、(1)関西圏におけるアンテナおよび無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、および(2)各種研究会・講演会活動を通

して関西圏企業・大学の活性化を図ることを基本的なミッションとして活動するため、1月28日に役員会を開催して本年の活動計画を策定した。

4月18日に、関西学院大学にて IEEE AP-S Kansai Chapter 特別講演を主催し、牛尾知雄教授（大阪大学）より「気象用フェーズドアレイレーダの研究開発」と題してご講演を頂いた。

8月23日に、立命館大学にて IEEE AP-S Kansai Chapter 次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップを主催し、宇野亨 教授（東京農工大学）より「無線通信の高度化を支えるアンテナ解析技術—高度化するアンテナシステム設計のための FDTD 法の原理と具体的応用—」と題してご講演を頂いた。参加者総数は53名であった。

12月21日には MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を開催し、関西電機メーカー等の若手技術者に大学院生を対象とした実際の研究開発活動の体験を講演していただいた。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/aps/>

#### e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

2013年2月12日、京都市において役員会を開催し、2013年度の活動計画に関する打ち合わせを行った。2月15日には、株式会社 国際電気通信基礎技術研究所(ATR)、〒619-0288 京都府相楽郡精華町光台二丁目2番地2(けいはんな学研都市)において、韓国、Chungbuk National Universityの教授である Prof. Heung-Gyoon Ryu 先生をお招きして、「Power Model Analysis and Consideration of Wireless Transceiver System」ならびに「Beamforming technology and digital retrodirective array antenna system」と題して2つの講演を頂いた。また、宇野 雅博氏（ATR 波動工学研究所 無線方式研究室 室長）に「移動体通信トラフィックの拡大に対応する次世代高効率周波数利用技術の研究」と題して講演を頂いた。講演の後、ATRの施設である大型電波暗室の見学および非線形マルチチューザ MIMO 実験装置の動態展示を行った。参加者総数は48名であった。6月24日に大東市大阪産業大学において役員会を行い、活動計画に関する打ち合わせを行った。10月5日に大阪工業大学うめきたナレッジセンター(大阪市北区)にて関西圏の大学に所属する学生を発表者とする学生研究発表会を開催した。阪大、関西学院大、関西大学、大阪工業大学、奈良先端大から計17件(内5件は英語)の口頭発表を行った。TPCによるプレゼンテーション評価の結果、Best Student Presentation Award は大阪大学の延堂拓也さんに決定した。発表者を含めた参加者数は41名であった。TPCから発表技術に関するコメントを集計し発表者にフィードバックを行った。

広報活動を活性化するため、facebook に COMS Kansai Chapter のページから情報発信を行っている。

<http://www.facebook.com/IEEEComSocKansaiChapter>

その他、活動報告の詳細は以下の URL により行なっている。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/coms/>



#### f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

2013年は2件の技術講演会の主催、国際会議1件の技術共催(Technical Co-Sponsorship)、セミナー1件の協賛を行った。具体的には次のとおりである。

2013年7月31日(水)に、キャンパスプラザ京都に於いて、「“Internet of Things”と進化するスマート家電」と題して、パナソニック株式会社の梶本氏にご講演頂いた。あらゆる機器がインターネットに接続される“Internet of Things”の時代における、生活スタイルや企業のビジネスモデルの変革を、家電の進化の視点から俯瞰して頂いた。講演会では、21名の参加者を集めて活発な質疑応答が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

2013年10月4日(金)に、キャンパスプラザ京都に於いて、「高度メディカル・ヘルスケアを支える生体センシングと情報処理」をテーマに、山内寛紀氏及び中嶋宏氏を講師にお招きして講演会を開催した。1件目は、「マンモブラムによる乳癌の自動診断技術」と題して、立命館大学の山内氏にご講演頂いた。乳癌の3大所見である(1)石灰化、(2)腫瘤、(3)構築の乱れを共に高精度に検出することで、専門医の診断を補助し、集団検診の第一次スクリーニングを目指しており、ここでは、石灰化・腫瘤・構築の乱れ、それぞれの検出アルゴリズムと現状の検出精度を示して頂いた。2件目は、「システムヘルスケアー健康管理におけるデバイスおよびサービスについて」と題して、オムロン株式会社の中嶋氏にご講演頂いた。家庭を中心とした日常生活にて計測した血圧などの生体情報や歩数などの行動情報を、個人の健康管理および医療現場で活用することが重要視されている中、本講演では、健康管理におけるデバイスおよびサービス開発の具体例をご紹介頂いた。実際の測定データに基づいた分析結果は、非常に興味を引くものがあった。講演会では、29名の参加者を集めて活発な質疑応答が行われ、今後の高度メディカル・ヘルスケアについて技術交流の場を持つことができた。

上記にあるとおり、業界で注目されている最先端技術についての講演会を主催し、関連技術者及び学生を多数集め、活動のアピールと会員獲得に務めた。

また、2013年11月29日にキャンパスプラザ京都で開催の立命館大学歴史都市防災研究所 第二回公開セミナーに協賛した。さらに、2013年12月9-11日に京都リサーチパークにて開催の The 2013 International Conference on Field-Programmable Technology (主催：慶応大学) に Technical Co-Sponsor として協力した。

技術講演会等の詳細は下記の URL に掲載している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cs/>

#### g. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

2013年度も、MTTS Kansai Chapterが独自に設定した4つのミッション（融合的産業の創出，電力ネットワーク要素技術の確立，シームレスな情報通信事業への貢献，融合的学際領域や新産業領域創出に対するプラットフォーム化），およびこれに対応する8つの戦略的領域を柱として活動を行った。

1月26日には「マイクロ波の医療応用」ワークショップを関西大学高槻キャンパス（高

槻市)にて開催し、健康管理から治療機器およびデバイス機器への展開に取り組む研究者4名を招き、研究開発時の課題から最新の研究開発動向までをご講演いただいた。参加者56名(うち会員32名、非会員24名)

4月27日には「光ファイバ無線技術の応用システム」ワークショップを同志社大学今出川キャンパス(京都市)にて開催し、光ファイバ無線技術を応用した各種システムを4名の講師の先生にご紹介いただいた。参加者67名(うち会員25名、非会員42名)

6月3日には、2012年5月に京都にて開催した国際会議International Microwave Workshop Series (IWMS) on Innovative Wireless Power Transmissionの成功がIEEE MTT-S本部で高く評価され、IEEE MTT-S 2012 Outstanding Chapter Recognition を受賞した。なお、授賞式は IEEE International Microwave Symposium 2013 (シアトル)にて開催されたIEEE MTT-S Chapter Chairs Meetingの中でとり行われた。

6月29日には国際的に活躍できる若手マイクロ波技術者の育成を目指して第6回マイクロ波英語発表会を龍谷大学ともいき荘(京都市)にて開催した。今回は過去最高の発表件数(28件)と参加者数(100名、うち会員23名、非会員77名)を記録するとともに、発表の質の向上を大いに実感する発表会となった。口頭発表については、評価委員による項目別評価を行い、その結果を発表者にフィードバックするとともに、優秀者の選定および表彰を行った。

7月27日(土)にはワークショップ「マイクロ波化学を支えるマイクロ波工学 -マイクロ波工学とマイクロ波化学の似て非なる領域-」を京都工芸繊維大学(京都市)にて開催した。これは、マイクロ波の化学応用に焦点を当てたワークショップで、4名の講師の先生方にご講演をいただいた。参加者数64名(IEEE会員34名、非会員30名)。

10月26日(土)には「社会安全のためのレーダ・センシング技術」ワークショップを関西大学(高槻市)にて開催した。これは、近年のゲリラ豪雨や竜巻、あるいは交差点における交通事故など社会安全の問題に焦点を当て、これらに貢献する最新のマイクロ波技術を3名の講師の先生にご紹介いただいた。参加者数49名(IEEE会員29名、非会員20名)。

12月21日には「若手技術交流会」をIEEE AP-S Kansai Chapterと合同開催した。この交流会では企業の若手技術者数名に日ごろの企業における研究の実態や魅力についてご講演いただくとともに、学生と企業の若手研究者がポスター発表を行い、自由に意見交換を行う場を提供するものである。このような交流会が若手研究者のIEEE入会の契機となることも狙いとしている。

また、表彰に関しては、MTT-S Japan Chapter、Nagoya Chapterとの共催で、2013 IEEE MTT-S Japan Young Engineer Awardの受賞者3名(五十川貴之氏、須賀良介氏、王小龍氏)、植之原道行記念賞1名(五十川貴之氏)の選定を行った。この賞は、指定のIEEE論文誌に掲載された原著論文の筆頭著者であり、かつマイクロ波の理論および技術の分野に貢献のあった38歳以下の若手研究者を表彰するもので、その授与式を11月28日にMicrowave Workshop and Exhibition (MWE) 2013の会場にて行った。

その他、電子情報通信学会マイクロ波研究会、電子情報通信学会 APMC 国内委員会等の活動に対して協賛を行っている。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/mtts/>

#### **h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter**

2013年1月24日(木)に大阪大学にて IEEE Photonics Society Kansai 特別講演として、伊東 一良 教授 (阪大)による"超短光パルスの光デバイス加工と分光顕微鏡への応用"、および森田 剛徳 氏 (浜松ホトニクス) による“High-Power and High-Efficiency 915 nm Broad-Area Laser Diodes with Window Structure (ISLC2012 報告)”を講演いただいた。同会場で電子情報通信学会 LQE、OPE、EMT、PN 各研究会と共催研究会を実施した。また 2013年6月30日(日)に CLEO-PR/OECC/PS 2013 (2013年6月30日 - 2013年7月4日 国立京都国際会館) の Workshop SWA1 を共催し、児玉教授 (大阪大学) による“Exploring of Photon Science with High Power Laser”を始め全9件の講演を頂いた。

国際会議 CLEO-PR/OECC/PS 2013 では IEEE Photonics Society Japan Best Student Award -CLEO-PR-、IEEE Photonics Society Japan Best Student Award -OECC/PS-、IEEE Photonics Society Japan Young Scientist Award -CLEO-PR-、IEEE Photonics Society Japan Young Scientist Award -OECC/PS-の若手支援事業を Japan chapter と共同で実施し、計14件の Award を授与した。さらに同会議では、IEEE Photonics Society Kansai/Japan chapter で協力し、IEEE Photonics Society のブースを設置・運営し盛況であった (写真)。

その他、1月から11月までで計6件の Administrative meeting を実施した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/pho/>



#### **i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter**

2013年はIEEE内外との連携により、4件の共催講演会を開催するとともに1件の学生賞を実施した。

1月28日には、関西大学千里山キャンパスにて技術講演会を開催し、3名の講師より次の題目のご講演を頂いた。(1) Prof. Waleed H. Abdulla, “FxLMS-Based Active Noise Control: Recent Advances,” (2) Prof. Muhammad T. Akhtar, “Recent Results on Adaptive Filtering in Active Noise Control Systems,” (3) Prof. Seiji Miyoshi, “Statistical-mechanics approach to signal processing —Theoretical analysis of FXLMS

algorithm—”。講演会では本技術分野に興味を持つ 37 名の参加者が集まった。

3 月 19 日には、国際電気通信基礎技術研究所(ATR)において技術講演会を開催し、鹿野清弘先生をお招きして、「けいはんなの音声研究と私」という題目でご講演頂いた。講演では先生の ATR や奈良先端科学技術大学院大学における音声研究の活動に関して様々なエピソードの紹介があった。大学・企業の音声研究に携わる研究者を中心に 91 名の参加者が集まった。

10 月 11 日には、NTT コミュニケーション科学基礎研究所にて技術講演会を開催し、ヘルシンキ大学の Aapo Hyvarinen 教授より、“Independent Component Analysis: Basic Theory and Recent Advances” という題目でご講演を頂いた。講演会では本技術分野に興味を持つ 54 名の参加者が集まった。

11 月 21 日には、海峡メッセ下関国際会議場にて技術講演会を開催し、IEEE Fellow 記念講演として名古屋大学名誉教授の谷本正幸先生に「自由視点テレビの開発と国際標準化」という題目でご講演を頂いた。大学・企業の信号処理研究に携わる研究者を中心に多くの参加者が集まった。

学生賞に関する活動として、IEEE SPS Japan Chapter との連名により、第 7 回 IEEE SPS Japan Student Paper Award を実施し、受賞者 2 名を 11 月 21 日に表彰した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sps/>

#### j. CES (Consumer Electronics Society) Kansai Chapter

長谷前 Chair が CE Society の Vice President に就任され、新国際会議 GCCE (Global Conference on Consumer Electrics) を立ち上げられた。その第 2 回 GCCE を 10 月 1 日から 4 日に幕張メッセ・国際会議場で開催した。今後も毎年 10 月に IEEE 主催の国際会議として日本で開催し、CE 関西が GCCE のホスト Chapter をつとめる。今回は Award Session, Student Award Session, 2 つの Poster Session を含む 25 セッションが開催され、発表論文は 200 件余。出席者数は 300 名以上。

また、10/2 には東京大学・坂村教授による基調講演と日本オーディオ協会 校條会長によるシンポジウムを開催した。

また、10 月 4 日に GCCE 会場にて Chapter 役員会を開催し、チャプター再編の経緯と現状を報告し、今後の進め方について確認した。さらに、第 2 回 GCCE の成功に続き、来年度に向けて投稿論文数および参加者を更に増やすための方策について議論を実施した。国内の他学会（映像情報メディア学会コンシューマエレクトロニクス研究会、画像電子学会スマートディスプレイ研究会、映像情報メディア学会コンシューマエレクトロニクス研究会等）との連携を深め協賛していただけるように活動を進めることとした。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/ces/>

#### k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

2013 年 3 月 8 日、アクロス福岡にて役員会を開催した。

さらに以下の行事に協賛した。

- ・ 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会 若手研究発表会 (2013/1/18)

- ・ 第 13 回 計測自動制御学会 制御部門大会 (2013/3/5-8)
- ・ ISCIE・SICE チュートリアル講座「実用的な制御系設計のための PID ゲインチューニング –使い所と勘所–」 (2013/7/25)
- ・ 第 56 回 自動制御連合講演会 (2013/11/16-17)
- ・ 第 45 回 ストカスティックシステムシンポジウム (2013/11/1-2)

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/css/>

## 6. IEEE マイルストーン

関西支部発の 3 件を申請手続き中。うち 2 件は 2014 年中に認定予定。

## 7. 共催・協賛・後援会議等

- (1) 社会起業一復興・再生への新しい展開に向けて  
主催：駐大阪・神戸アメリカ総領事館、一般社団法人映像情報メディア学会  
日時：2013 年 4 月 23 日 (火)  
場所：ヒルトン大阪 4F 金の間
- (2) The 2013 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK2013)  
主催：IEEE EDS Kansai Chapter  
日時：2013 年 6 月 5 日 (水) ～6 日 (木)  
場所：関西大学 100 周年記念会館
- (3) IEEE Region 10 Humanitarian Technology Conference 2013 (R10-HTC2013)  
主催：IEEE Humanitarian AdHoc Committee, Region10, and Japan Council, nine IEEE Sections all Japan (Fukuoka, Hiroshima, Kansai, Nagoya, Sapporo, Sendai, Shikoku, Shinetsu, Tokyo)  
日時：2013 年 8 月 26 日 (月) ～29 日 (木)  
場所：東北大学 川内北キャンパス
- (4) CRDF 科学技術英語ワークショップ  
主催：CRDF Global  
日時：2013 年 11 月 8 日 (金) ～10 日 (日)  
場所：志摩地中海村
- (5) 平成 25 年電気関係学会関西連合大会  
主催：電気学会 電子情報通信学会 照明学会 映像情報メディア学会 電気設備学会 各関西支部  
日時：2013 年 11 月 16 日 (土) ～17 日 (日)  
場所：大阪電気通信大学 寝屋川キャンパス エデュケーションセンター

## 8. Region 10 Meeting

2013 年 3 月 2 日～3 日の日程でタイのチェンマイにて開催された Region 10 Meeting には、関西支部より小野寺 Chair が出席した。

2014 年は、3 月 2 日 (土) ～3 日 (日) にマレーシアで開催される。

## 9. WIE 活動

関西支部 WIE AG 設立に向けて 6 月 7 日に petition を正式に申請した。今後は関西支部 WIE AG を中心に、関西でのイベント開催等の企画など、女性会員間の交流を目的とした WIE 活動を MDC、SAC および LMAG とも連携しながら活性化させていきたい。

## 10. 関西支部からの IEEE 本部役職就任

川本博久氏（元奈良先端科学技術大学院大学）

Member, IEEE History Committee

小山正樹教授（元奈良先端科学技術大学院大学）

Member, IEEE Admission and Advancement Committee

白川功教授（兵庫県立大学）

Member, IEEE Honorary Membership Committee

Member, IEEE History Committee

(アルファベット順)

## 11. 情報の発信

### (1) 関西支部 Web ページ

Japan Council のサーバに設置されている下記ホームページでタイムリーに情報発信した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>

### (2) 電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、Fellow 推薦等の案内をタイムリーに、電子メール・関西支部ホームページを用いて広く公告するなど情報発信に努めた。

### (3) Newsletter の発行

No.24 (2013 年 5 月 22 日発行) : 総会の様子や GOLD 賞、学生研究奨励賞の受賞者紹介をはじめ、関西支部に関する情報を提供。

No.25 (2013 年 9 月 13 日発行) : 2013 年 IEEE 関西支部 GOLD 賞の募集および、2013 年 IEEE 関西支部学生研究奨励賞の募集に関する情報を提供。



## IV. 関西支部会員数

### 1. グレード別会員数

2014.1.25 現在

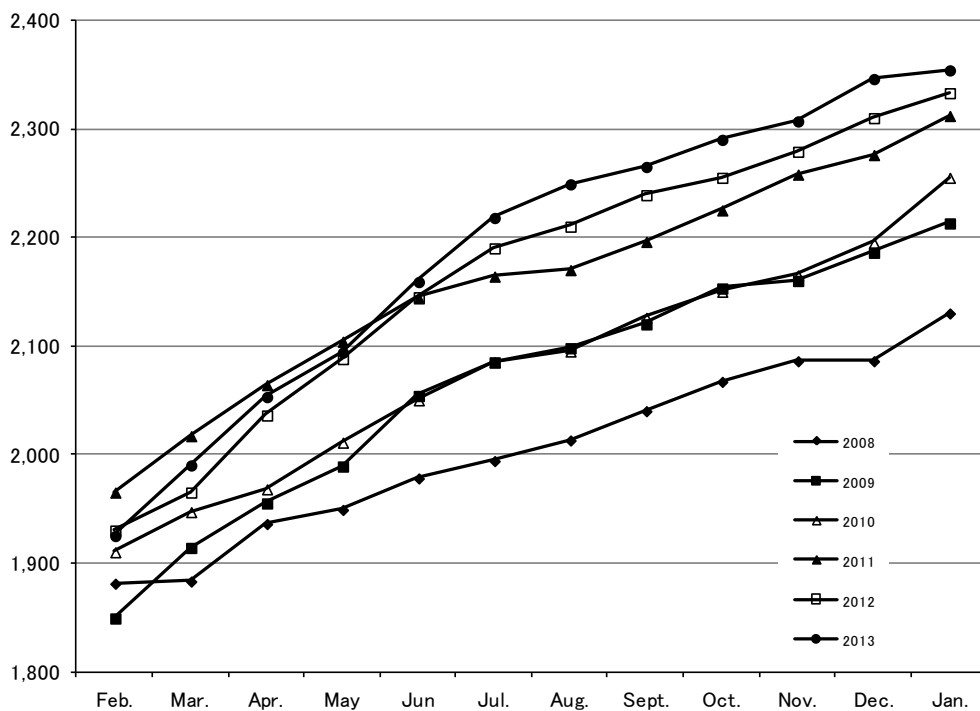
グレード	Grade Code	会員数
Honorary Member	H	1
Life Fellow	LF	45
Fellow	F	35
Life Senior Member	LS	14
Senior Member	SM	113
Pending Senior Member	PS	0
Life Member	LM	64
Member	M	1,604
Pending Member	PM	0
Life Associate	LA	0
Associate	AM	62
Graduate Student Member	GSM	288
Student Member	StM	129
Total		2,355

上記集計では、Active 会員のみをカウントし、かつ、他のセクションへの移籍者等は含まない。

・【グレード別会員数の推移】



・【月ごとの会員数推移】





## 2. ソサイエティ別会員数

2014/1/25 現在

ソサイエティ	Code	会員数
Signal Processing	SP 001	149
Broadcast Technology	BT 002	5
Antennas and Propagation	AP 003	61
Circuits and Systems	CAS 004	121
Nuclear and Plasma Science	NPS 005	25
Vehicular Technology	VT 006	42
Reliability	R 007	8
Consumer Electronics	CE 008	33
Instrumentation and Measurement	IM 009	19
Aerospace and Electronic System	AES 010	16
Computational Intelligence	CIS 011	84
Information Theory	IT 012	44
Industrial Electronics	IE 013	50
Engineering Management	EM 014	0
Electron Devices	ED 015	187
Computer	C 016	430
Microwave Theory and Techniques	MTT 017	148
Engineering in Medicine and Biology	EMB 018	213
Communications	COM 019	216
Ultrasonics, Ferroelectronics and Frequency Control	UFFC 20	49
Components, Packaging and Manufacturing Technology	CPMT 21	27
Oceanic Engineering	OE 22	11
Control Systems	CS 23	101
Robotics and Automation	RA 24	146
Education	E 25	14
Professional Communication	PC 26	2
Electromagnetic Compatibility	EMC 27	23
System, Man and Cybernetics	SMC 28	111
Geoscience and Remote Sensing	GRS 29	16
Social Implications of Technology	SIT 30	4

Power Engineering	PE 31	50
Dielectrics and Electrical Insulation	DEI 32	13
Magnetics	MAG 33	34
Industry Applications	IA 34	43
Power Electronics	PEL 35	59
Photonics (formerly Lasers and Electro-Optics)	PHO 36	90
Solid-State Circuits	SSC 37	148
Intelligent Transportation Systems	ITSS 38	15
Product Safety Engineering	PSE 43	1
Total		2,808

## V. 2014 年 活動計画

### 1. 総会

2014 年 2 月 17 日 (月) 15:00~17:30 の予定で、定例総会を実施する。

### 2. 技術講演会

Technical Program Committee の企画により、講演会を実施する。

### 3. 理事会

第 1 回理事会 1 月 17 日 キャンパスプラザ京都

2014 年活動計画 ・ 2014 年各 Committee の活動計画 ・ 2014 年予算 (案)

第 2 回理事会 2 月 17 日 京都テルサ

2014 年総会について

2014 年中に、さらに数回の理事会を開催する予定である。

### 4. 関西支部 GOLD 賞

2013 年に引き続き、Award 受賞候補者を公募し、該当者を表彰する。

### 5. 関西支部学生研究奨励賞

2013 年に引き続き、学生研究奨励賞受賞候補者を公募し、該当者を表彰する。

### 6. 関西支部メダル

2013 年に引き続き、関西支部内の新 Senior Member に関西支部メダルを授与する。

### 7. 各 Committee 活動計画

#### a. Membership Development Committee

- (1) 2014 年も MDC 委員会に参加する機関を通して、IEEE 活動の利点を広く周知し、新卒者の学生会員から正会員への移行をスムーズに行わせるとともに、Senior Member への upgrade を推進することを活動の中心とする。また SAC と連携し、大学院生を中心とした学生会員の増加に力を入れる。
- (2) 学会や研究会で IEEE の宣伝を行うために、ポスターやパンフレットを入手して各委員に配布する。
- (3) 各委員の組織における会員状況を定期的に配布する事で、会員数増加のための資料としてもらう。
- (4) 学生の卒業時、及び 6 月頃に renew を促すためのメールを、メーリングリストを通して全会員に対して送付する。特に、M2 に対して、2~3 月頃に会員継続のためのメールを送り、正会員への移行をフォローする。
- (5) Senior member 増加のため upgrade のためのスキームを構築する。
- (6) 会員になるための手続き、及び送金について日本国内でも、より簡単に行えるような仕組みにするための検討を行っていく。

- (7) MDC & SAC に委員を出していない、会員数が多い組織に声をかけ、新たに委員を増やすことで会員数の増加を狙う。

#### **b. Nominations Committee**

2013 年活動と同様に、Membership Development Committee と共同して Senior Member だけではなく、正員、学生員の拡大をも図る。2015 年 Fellow Nomination に向けて Fellow 候補者をできるだけ多く推薦する。推薦手順は 2013 年活動と同一の予定。Senior Member に対し Fellow 制度への関心の醸成を行う。

#### **c. Student Activities Committee**

##### (1) Student Branch の設立

昨年に引き続き、学生会員の勧誘を進め、Student Branch の設立に向け努力を継続する。既設の大阪大学、立命館大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学各 Branch からの支援で、神戸大学、関西学院大学等を対象に Student Branch の設立を目指す。

##### (2) 学生会員活動の活発化

学生を対象とした講演会、見学会、IEEE 活動説明会を兼ねたイベントを企画し、学生会員の一層の増加を図る。既設の 7 大学 Student Branch の協力により、Student Branch が設置されていない大学に対しても、学生会員への積極的なサービス提供ならびに会員増強のプロモーションを図る。関西支部の 7 大学 Student Branch を中心に、交流会を引き続き開催し、Student Branch 間の交流を深める。さらに、SB Chair ミーティングを開催し、活動の活発化を促すとともに、SB 間の協力体制を強化することを目指す。

##### (3) 表彰および研究奨励

2004 年から開始した IEEE 関西支部学生研究奨励賞を (Awards Committee と共同する形で) 継続して企画し、優れた英文論文を発表した学生を表彰し、学生会員の研究を奨励する。また、受賞者が受賞内容について講演する機会を設けて、更なる学生会員の活動の活性化を目指す。

##### (4) 他支部の学生活動との連携

国内に設立されている他の 8 支部の学生活動との情報交換、連携により関西支部における学生会員活動のより一層の深化を図る。

#### **d. Technical Program Committee**

2013 年と同様、講演会の開催を主たる活動とする。2014 年も 5 回以上の企画・開催を目指す。従来から継続している、大阪・京都・神戸地区での講演会の開催、会員からの講演会の提案受付に加え、他団体との共催などにも積極的に取り組む。

特に特定の Chapter に属さないような横断的/学際的分野、技術の方向性、イノベーション、グローバル化といった内容の講演会も積極的に開催する。

#### e. Awards Committee

2013年に引き続き、若手会員の増強施策としての「IEEE 関西支部 GOLD 賞」の募集・選定作業、ならびに学生会員の増強施策としての「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」募集のより一層の活性化と選定作業を継続して行う。

また、中長期的視野で学生会員や若手会員のさらなる増強をめざして、予算措置を視野に入れながら新企画について検討を行う。

#### f. Chapter Operations Committee

関西支部内の Chapter で活動状況について横断的に情報共有を行い、各 Chapter の活動をさらに活性化させる。具体的には、Japan Council Chapter Operation Committee と連携して、各 Chapter 活動報告による情報共有、Distinguished Lecturer 制度の説明、Japan Council の支部 Chapter 支援費の説明などを行う。さらに、IEEE 本部へ行う報告や Chapter 維持条件の説明を通して、定常活動の維持について各 Chapter に再確認する。また、これまでに引き続き関西支部での Chapter を支援するため、新設に必要な情報の提供、既存 Chapter との情報交換などを行う。他 Section との合同 Chapter 設立についても積極的に推進する。

#### g. Life Members Affinity Group

2014年は年間活動2年目として活動を安定軌道に乗せる。2月に年次総会を開催する。そして、2013年同様に関西支部 TPC、WIE などと連携して数回の講演会（現地講演会も含む）を開催する。また、「Kansai-LMAG Newsletter」を発行しホームページに掲載するとともに電子メールにて案内する。

#### h. WIE Affinity Group

設立元年として、井上 Chair のもと、新役員体制を早急に確立し、関西での女性会員間の交流、意識向上などを目的としたイベント開催等の企画を、MDC、SAC および LMAG と連携しながら活性化させ、あわせて女性会員の増強を図る。

### 8. Kansai Chapter 活動計画

#### a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

1月には、IEDM2013 報告会を開催し、数名の講師が同会議の参加者にシリコンデバイス/プロセス関連および化合物デバイス、モデリング・信頼性関連の技術情報についてご講演頂く。同日、EDS 関西チャプター総会を開催予定である。

6月には、国際会議である“2014 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2014)”を龍谷大学アバンティ響都ホールにて開催を予定している。招待講演 (Keynote および Invited)、一般講演およびポスター講演 (ショートプレゼンテーション付き) を実施する。学生や若手研究者を中心に参加頂き、会員の活発な技術交流と教育の場を提供する。先進性に優れていると判断された論文の著者に Award を授与し、

その学術的貢献を表彰する。また、本会議に先立って、2件のチュートリアル講演会を開催する計画である。

7月には Distinguished Lecturer を招いての技術講演会 (DL Meeting) および技術講演会を開催する予定である。10月には技術講演会としてはすでに定例となった関西コロキアム電子デバイスワークショップを開催し、講師には国際レベルの研究成果を日本語にて発表して頂く予定である。先進性に優れていると判断された論文の著者に Award を授与し、その学術的貢献を表彰する。

#### **b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter**

2014年も引き続き技術講演会を中心に活動を展開し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。

“2014 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2014)”をEDSと共催で6月19日～20日に開催予定である。また技術講演会を8月頃に開催し、国内外より著名なVLSI設計関連の技術者を招く予定である。さらに、関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛するとともに、協賛金とAwardを出し、会員獲得に努める計画である。

#### **c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter**

2014年も2013年と同様に、技術講演会を主催・共催として企画・実行することを中心に活動し、学生や若手研究者・技術者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。著名な国外研究者が集まる国際会議やプログラム委員会の開催に合わせて、講演会を開催することも検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを共催、あるいは協賛し、学会活動に貢献するとともに会員獲得に努める計画である。

#### **d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Chapter**

昨年に引き続き、(1)関西圏におけるアンテナや無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、および (2)各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ることを基本的なミッションとして活動し、4月にIEEE AP-S Kansai Chapter 特別講演と、8月に次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップを主催し、12月にMTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を開催することを予定している。

#### **e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter**

技術講演会を中心に活動を展開し、学生および若手研究者を主な対象として質の高い講演および技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。10月を目処に学生研究発表会を開催し、通信関連技術に関する発表会を行う予定である。TPCによる評価の上、優秀な発表者にはIEEE Best Student Presentation Award を贈呈する。

#### f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

2014 年も技術講演会を中心に活動し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。

著名な国外研究者が集まる学会の開催に合わせて、講演会を開催することを検討している。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、会員獲得に努める計画である。

#### g. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

2014 年も策定したミッションに基づいた技術講演会、若手技術者交流会、英語発表会を中心に活動を行う予定である。また、Japan および Nagoya Chapter とともに Fellow および Senior Member への昇格候補者支援を引き続き行うとともに関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを積極的に共催／協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。また、大学でマイクロ波工学、電磁波工学、高周波回路等を勉強している学生とマイクロ波技術者、超高速高周波回路技術者を求めている企業の間を橋渡しする「マイクロ波出会いの広場」を新サービスとして Web 上に立ち上げ、運用を開始する予定である。

#### h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

2014 年は 4 回以上の技術講演会の企画・開催を目指す。2014 年度の皮切りとして例年通り 1 月 23 日～24 日に電子情報通信学会の LQE/OPE/EMT/PN 合同研究会(同志社大)と併催の形で裏教授(京都工繊大)による”Integrated-optic Vertical I/O Couplers for On-board High-density Optical Interconnects”報告が決定している。

#### i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

2014 年も講演会の開催を中心とする活動を展開し、会員の学識、および知見の向上を図る。昨年と同様に、IEEE SPS Japan Chapter との連名で 2 件の学生賞を実施するとともに、学生が積極的に行事に参加するよう促し、新しい会員の獲得に努める。Signal Processing Society は、対象が基礎から応用まで広範囲に及び、特に基礎部門については、異分野との交流により成果を上げられる話題も少なくないことから、これまで以上に他の学会や研究会との積極的な連携を図り、共催、協賛での行事開催に取り組む。

#### j. CES (Consumer Electronics Society) West Japan Joint Chapter

##### (a) 第 1 回研究発表会

日時：1 月下旬

場所：キャンパスプラザ京都

内容：

- ・研究発表会 (3 件以上)
- ・ICCE2014 報告(長谷 Chair が来年度開催の ICCE2015 の General Chair に就任)

##### (b) CE Society West Japan Joint Chapter 設立記念総会兼講演会



日時：3月上旬  
場所：未定  
内容：記念講演と特別講演（DLを含む）。

(c) GCCE2014

日時：10月7-10日  
場所：幕張メッセ  
内容：IEEE主催の国際会議

Chapter 役員会

(1) 第1回幹事会

日時：1月下旬  
場所：キャンパスプラザ京都  
内容：上記(a)の講演会終了後に開催  
議題：本年の活動計画。上記(b)の創設イベントの詳細準備

(2) 第2回幹事会

日時：3月上旬  
場所：未定  
内容：上記(b)の創設イベントの終了後、関係支部の人との顔合わせ

(3) 第3回幹事会

日時：7月上旬  
場所：山口大学  
内容：GCCE2014の詳細準備

(4) 第4回幹事会

日時：10月7-10日の間  
場所：幕張メッセ  
内容：GCCE2014の総括と来年度の活動方針

(5) 第5回幹事会

日時：12月下旬  
場所：キャンパスプラザ京都。若手論文賞の授与  
内容：2014年度の総括と来年度の活動方針

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/ces/>

k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

1. 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会 若手研究発表会 (2014/1/17)
  2. 第1回 計測自動制御学会 制御部門 マルチシンポジウム (2014/3/4-7)
  3. ISCIE・SICE チュートリアル講座
- 他、数件の学会に協賛の予定。また2回の役員会を予定

9. 協賛会議 (2014年1月31日現在予定分、受付順)

- (1) The 2014 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK2014)



主催 : IEEE EDS Kansai Chapter

日時 : 2014 年 6 月 19 日 (木) ~ 20 日 (金)

場所 : 龍谷大学 アバンティ響都ホール

#### 10. Region 10 Meeting

2014 年 3 月 1 日 (土) ~ 2 日 (日) の日程でマレーシアのボルネオ島クチンで開催される Region 10 Meeting には、関西支部より例年通り参加し、R10 の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努める。

#### 11. Sections Congress

3 年に一度開催の Sections Congress が 8 月 22 日 (金) ~ 24 日 (日)、アムステルダムで開催される。IEEE の Regional activity を包括的に理解し、支部活動の具体的な運営ノウハウを得る貴重な機会であるので、関西支部としても参加し、積極的に活用する。

## VI. 2013年 会計報告

### 収入の部

(単位：円)

予算案@85 円/\$ 実績

◆IEEE Entity 間勘定	4,485,723	5,221,789	
・Section Rebate (IEEE 本部より)	1,147,220	1,273,348	\$12,970.28@98.29 円/\$ 7/26
・Section Assessment 2013 前期(同上)	3,186,203	3,762,653	\$37,562.65@100.21 円/\$ 5/29
・Section Assessment 2013 後期(同上)	117,191	71,004	\$743.25@97.55 円/\$ 11.6
・Student Branch Rebate	0	79,585	\$868.00@98.14 円/\$ 1/31, 3/14
・LMAG2012 費用	35,109	35,199	\$413.05 2012 設立総会費用
◆その他	506,400	520,687	
・Section 支援金 (GOLD Award メダル代)	26,400	17,217	JC より(2013 年 4 月報告分) (1 個)
・Section 支援金 (学生研究奨励賞代)	242,000	154,000	JC より(2013 年 4 月報告分) (7 名)
・Section 支援金 (関西支部メダル代補助)	88,000	87,270	JC より(2013 年 4 月報告分) (10 個)
・Section 支援金 (WIE)	0	0	
・Section 支援金 (Student Branch 支援費)	20,000	50,000	JC より(2013 年 12 月報告分)
・LMAG 支援費	0	0	
・懇親会費徴収	130,000	212,000	総会懇親会
・利息	0	200	
◆2012 年からの繰越金	1,161,074	1,161,074	
合 計	6,153,197	6,903,550	

Rebate 内訳 { \$2,000 + \$4 × (Fellow, Senior 会員数=212) + \$3 × (Member, Associate, Student 会員数=2,099) + \$1.5 × (Affiliate 会員数=155) + \$200 × (Chapter 数=11) } × 1.10 + \$300 (Chapter Bonus: CAS, MTTs, CSS, SSCS) + \$200 (Section Bonus)

### 支出の部

(単位：円)

予算案 実績

◆IEEE Entity 間勘定	3,519,269	4,188,914	
・Japan Council 拠出金	3,300,394	3,833,237	3,762,443+70,794
・Chapter Rebate	218,875	267,352	\$220 × 11 + \$75 × 4@98.29 円/\$
・Student Branch Rebate	0	88,325	立命館大、京大、阪大、兵庫県立大、関大
◆会合・AWARD 費	1,227,400	970,934	
・総会費	250,000	254,602	資料代、懇親会費など
・講演会	90,000	10,000	1 名分
・理事会費	200,000	209,680	会場代、飲食代 5 回+1 回
・Committee 会合費	250,000	153,338	MDC/SAC2 回、SB1 回
・GOLD Award 費	17,217	17,217	造幣局メダル代(1 人)
・学生研究奨励費	154,000	140,000	賞金(7 人)

・支部メダル費	88,000	87,270	造幣局(10 個)
・Student Branch 支援費	55,000	68,827	立命館大 EPC
・WIE 支援費	0	0	
・LMAG 支援費 (講演会費)	0	30,000	1 名分
◆事務経費	42,000	12,230	
・外部監査費	0	0	外部監査不要
・事務用品費	2,000	3,430	ファイル等
・旅費	20,000	7,900	学生研究奨励賞交通費補助
・通信費	20,000	900	郵送費
◆雑費	25,000	6,615	為替手数料, 振込手数料など
◆2014 年への繰越	1,462,711	1,724,857	
合 計	6,153,197	6,903,550	

## VII. 2014 年 予算 (案)

### 収入の部

(単位：円)

◆IEEE Entity 間勘定	5,193,807	
・Section Rebate (IEEE 本部より)	1,255,150	2014/1 月会員数を元に計算
・Section Assessment 2014 前期(同上)	3,186,203	2013 実績\$を元に換算
・Section Assessment 2014 後期(同上)	117,191	2013 実績\$を元に換算
・Sections Congress 参加支援費	75,000	\$750
・LMAG 支援金	30,000	\$304
◆その他	618,942	
・Section 支援金 (GOLD Award メダル代)	22,942	JC より(2013 年 11 月申請分) (2 個)
・Section 支援金 (学生研究奨励賞代)	176,000	JC より(2013 年 11 月申請分) (8 名)
・Section 支援金 (関西支部メダル代補助)	0	
・Section 支援金 (WIE)	0	
・Section 支援金 (Student Branch 支援費)	50,000	2013 年同額
・Section 支援金 (Milestone 経費)	240,000	JC に申請予定
・懇親会費徴収	130,000	総会懇親会(5,000 円×26 名想定)
◆2013 年からの繰越金	1,724,857	
合 計	7,537,606	

100 円/\$として計算

Rebate 内訳 { \$2,000 + \$4 × (Fellow, Senior 会員数 = 208) + \$3 × (Member, Associate, Student 会員数 = 2,152) + \$1.5 × (Affiliate 会員数 = 179) + \$200 × (Chapter 数 = 11) } × 1.10 + \$375 (Chapter Bonus: EDS, SSCS, CASS, MTTs, CSS) + \$200 (Section Bonus) ※会員数は、2014 年 1 月 14 日現在

支出の部

(単位：円)

◆IEEE Entity 間勘定	4,110,157	
・Japan Council 拠出金	3,830,657	上記入金-1500 円×2
・Chapter Rebate	279,500	(\$220×11+\$75×5)=\$2,575
◆会合・AWARD 費	1,818,942	
・総会費	250,000	資料代、懇親会費など
・講演会	90,000	3 名分
・理事会費	200,000	会場代、飲食代 6 回
・Committee 会合費	250,000	MDC/SAC2 回、COC 等
・GOLD Award 費	22,942	メダル代(2 人)
・学生研究奨励費	176,000	賞金,賞状代(8 人)
・支部メダル費	0	
・Student Branch 支援費	60,000	立命館大 EPC
・WIE 支援費	0	
・LMAG 支援費	30,000	2013 年同額
・Sections Congress 参加費	500,000	旅費、宿泊費 (アムステルダム)
・Milestone 経費	240,000	2 件
◆事務経費	42,000	
・外部監査費	0	外部監査不要
・事務用品費	2,000	ファイル等
・旅費	20,000	学生研究奨励賞交通費補助
・通信費	20,000	郵送費、宅急便等
◆雑費	25,000	為替手数料, 振込手数料など
◆2015 年への繰越	1,541,507	
合 計	7,537,606	

100 円/\$として計算

## VIII. 受賞者

### IEEE 関西支部 GOLD 賞受賞者

	計2名 (アルファベット順、敬称略)
関 宏理	(関西学院大学)
山下 将卓	(同志社大学)

### IEEE 関西支部学生研究奨励賞受賞者

	計8名 (アルファベット順、敬称略)
天木 健彦	(大阪大学)
原田 諒	(大阪大学)
松本 高士	(京都大学)
宮崎 信浩	(関西大学)
村上 寛明	(大阪大学)
庄司 観	(大阪大学)
宋 光輝	(同志社大学)
樽谷 優弥	(大阪大学)

### IEEE 関西支部 メダル受賞者

	計8名 (アルファベット順、敬称略)
馬場 吉弘	(同志社大学)
原田 泰男	(パナソニック株式会社)
平野 和夫	(元住友電気工業株式会社)
馬見塚 拓	(京都大学)
村松 純	(日本電信電話)
能町 正治	(大阪大学)
浦岡 行治	(奈良先端科学技術大学院大学)
山下 茂	(立命館大学)

### IEEE 関西支部 新 Fellow

	計2名 (アルファベット順、敬称略)
石渕 久生	(大阪府立大学)
清水 徹	(ルネサス エレクトロニクス)

## **IX. IEEE KANSAI SECTION BYLAWS**

### **IEEE KANSAI SECTION BYLAWS**

In all instances, the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) Bylaws, Constitution, Policy and Procedures manual, and the Member and Geographic Activities (MGA) Operations Manual will prevail when there is a conflict between these documents and Section Bylaws.

#### **ARTICLE I --- Name and Territory**

##### Section 1

This organization shall be known as the Kansai Section of the IEEE.

##### Section 2

The territory of the Kansai Section, as approved by the MGA Board, includes the following:

Osaka, Kyoto, Hyogo, Nara, Shiga, and Wakayama prefectures, JAPAN

(The districts with the postal codes starting with 52 through 67 inclusive.)

#### **ARTICLE II --- Officers**

##### Section 1

The elected officers of the Kansai Section shall be the 4 Executive officers: Chair, Vice Chair, Secretary and Treasurer. The offices of the Secretary and Treasurer may be combined.

##### Section 2

The terms of office of the elected officers shall be for 2 years.

##### Section 3

Terms of office will begin on January 1 but, in any case, the outgoing officers will continue until their successors are duly elected and take office. The consecutive period of service shall not exceed two years.

##### Section 4

Any vacancy occurring during the year shall be filled by a majority vote of the Section Executive Committee.

#### **ARTICLE III --- Standing Committee**

##### Section 1

The Standing Committees of the Section will be as follows:

- Membership Development Committee
- Nominations Committee
- Student Activities Committee
- Technical Program Committee

- Awards Committee
- Chapter Operations Committee

#### Section 2

The Chair of the Standing Committees will be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Section Chair.

#### Section 3

Each Committee Chair will appoint his/her Committee members, with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Committee Chairs'.

#### Section 4

Duties of the Standing Committees will be as generally described in the IEEE Section Operations Guide.

### **ARTICLE IV --- Management**

#### Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

- Standing Committee Chairs,
- representatives of Chapters,
- such other members appointed by the Section Executive Committee,
- and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

#### Section 2

A majority of the Section Executive Committee shall constitute a quorum, provided that delegates elected by the Section membership are at least one greater in number than delegates appointed to the Committee.

#### Section 3

A majority of the Section Executive Committee present shall be necessary in the conduct of its business.

#### Section 4

Meetings of the Section Executive Committee ordinarily will be held at least twice a year and will be called by the Section Chair or by a request of three members of the Section Executive Committee.

#### Section 5

The fiscal year of the Section shall be the calendar year.

## **ARTICLE V --- Nomination and Election of Officers**

### Section 1

A nominating Committee consisting of three members, not then officers of the Section, shall be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee.

### Section 2

The nominations of the Nominating Committee will be announced to the Section membership and, following this, a minimum of 28 days allowed for additional nominations by petition. To be valid, the petition must be signed by 2% or more voting membership.

### Section 3

If only one nomination is made for each office, the election will be made at the Annual Meeting. If additional nominations are made, election will be by ballot, mailed to the membership with the vote counted by a Tellers Committee appointed by the Section Chair.

### Section 4

The timetable for this procedure is as follows:

Appointment of Nominating Committee:	by August 31
Announcement of Nominations:	by September 30
Close nominations by petition:	by October 31
Hold election:	by November 30

### Section 5

A plurality of the votes cast shall be necessary for election.

## **ARTICLE VI --- Business Meeting**

### Section 1

In order to transact business at a Section meeting, at least 3 members must be present to constitute a quorum.

## **ARTICLE VII --- Finances**

### Section 1

All expenditures of Section funds must be approved by Section Treasurer or Chair.

### Section 2

Without prior authorization of the IEEE Executive Committee, Section funds can be used only for normal operations of the Section.

### Section 3

The treasurer shall be authorized to draw funds as approved by the Section Executive Committee.



## **ARTICLE VIII --- Amendments**

### Section 1

Proposals for amendments to these Bylaws may originate in the Section Executive Committee or by a petition signed by 20% or more voting members.

### Section 2

Amendments to or revocation of these Bylaws shall be in accordance with the IEEE Bylaws, Policies, and the MGA Operations Manual.

(memo)

2014 年 IEEE 関西支部連絡先  
〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台 2-4  
日本電信電話株式会社  
NTT コミュニケーション科学基礎研究所 内  
IEEE 関西支部事務局  
e-mail: sec-kansai@ieee-jp.org  
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>  
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/english/>